

## 施策5-1 観光資源となる魅力の再発見と磨き上げ

### 1 事業の進捗状況

★は政策推進プランに掲げる目標値等

#### ●福岡の歴史資源の観光活用

##### 博多旧市街プロジェクトの推進

- ★「博多町家」ふるさと館入館者数 R3n : 43,369人 → R4n : 89,727人
- ★福岡アジア美術館入館者数 R3n : 202,186人 → R4n : 531,278人
  - ・外国人来館者数（「博多町家」ふるさと館、福岡アジア美術館）  
R3n : 498人 → R4n : 4,957人

##### 鴻臚館・福岡城への集客向上に向けた取組み

- ★鴻臚館跡展示館の改修
- ★潮見櫓建物復元整備工事に着手
- ★福岡城むかし探訪館来館者数 R3n : 13,015人 → R4n : 24,085人
- ★三の丸スクエア来館者数 R3n : 14,591人 → R4n : 34,234人
  - ・鴻臚館跡展示館来館者数 R3n : 12,162人 → R4n : 24,762人
  - ・外国人来館者数（福岡城むかし探訪館、三の丸スクエア、鴻臚館跡展示館）  
R3n : 257人 → R4n : 5,898人

##### 文化財の観光資源としての活用促進

- ・吉武高木遺跡「やよいの風公園」での菜の花・コスモス花畑公開 R3n : 2回 → R4n : 2回
- ・SNSを活用した史跡の情報発信

#### ●魅力の磨き上げ

##### アジアと創る新たな魅力づくり（アジアンパーティ） <再掲7-3>

- ・クリエイティブフェスタの来場者数 R3n : 約40,000人 → R4n : 約45,000人

##### 集客交流拠点としての美術館の魅力向上 <再掲1-4>

- ・魅力的なコレクション展や特別展の開催、福岡アートアワードの創設

##### 集客交流拠点としての福岡アジア美術館の魅力向上 <再掲1-4>

- ・「アートカフェ」で、市主催及び民間利用によるイベントやユニークメニューを実施
- ・外国人来館者数（福岡アジア美術館） R3n : 465人 → R4n : 1,951人

##### 集客交流拠点としての博物館の魅力向上<再掲1-4>

- ・所蔵資料を活かした魅力あふれる企画展の開催や施設を利用した多様なイベントを実施

##### 海辺を活かした観光振興事業

- ・海辺の観光周遊コースの形成に向けて、写真を撮りたくなる海辺の魅力づくりや立ち寄りスポットづくりの検討等
- ★北崎地区の歩道美装化工事（R3.4完了）、無電柱化工事（R5.4完了）
- ★志賀島地区の無電柱化工事を実施
- ・志賀島周辺エリア内でのレンタサイクル利用者数 R3n : 2,764人 → R4n : 5,090人

**無電柱化の推進<再掲3-1>**

- ・無電柱化整備延長 R3n: 154.7km → R4n: 155.6km

**ふくおかの“食”の磨き上げ <再掲6-4>**

- ・海外のシェフ等との商談回数 R3n: 実施なし → R4n: 6回

**緑化の啓発・推進 <再掲4-3>**

- ・おもてなし花壇による景観づくり (スポンサー企業協賛による花壇づくり)  
R3n: 155社 → R4n: 165社
- ・ボランティア花壇団体数 (街路) R3n: 計204団体 → R4n: 計224団体

**動植物園再生事業 <再掲4-4>**

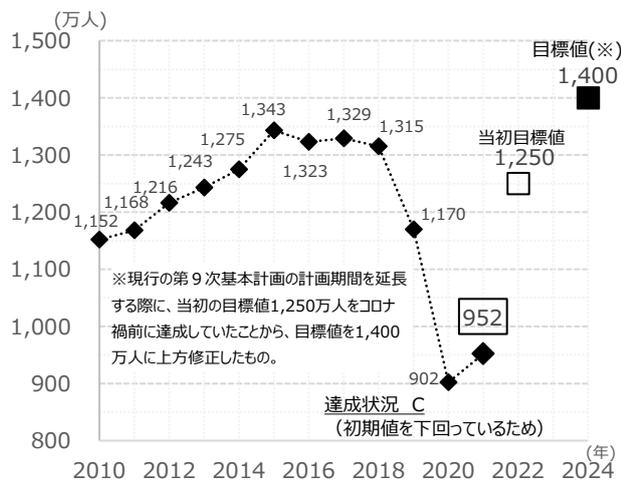
- ★アジアゾウの受入れに向けた環境整備を実施
- ★一人一花運動の拠点の核となるボタニカルライフスクエアを供用開始 (R5.3)

**特色ある公園づくり事業 <再掲4-4>**

- ・高宮南緑地 (旧高宮貝島家住宅) について、指定管理者による管理運営開始 (R4.4)

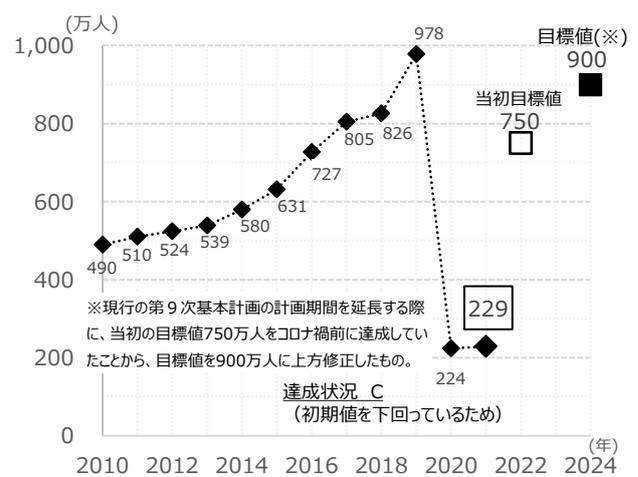
## 2 成果指標等

### ① 入込観光客数（日帰り）



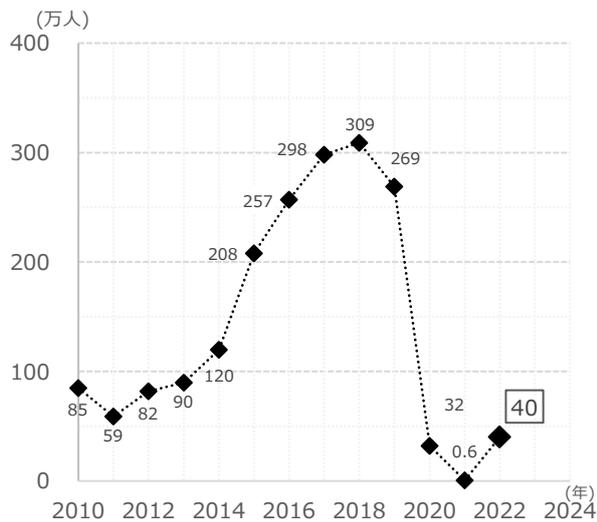
出典：福岡市経済観光文化局「福岡市観光統計」

### ② 入込観光客数（宿泊）



出典：福岡市経済観光文化局「福岡市観光統計」

### ③福岡市への外国人来訪者数 [補完指標] ＜再掲5-6＞



出典：法務省「出入国管理統計」

#### <指標の分析>

指標①及び指標②については、入込観光客数全体（日帰り＋宿泊）は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により大幅に減少したが、Fukuoka East&West Coast プロジェクトなどの身近な観光資源を活用した新たな滞在コンテンツの造成等により、マイクロツーリズムなど新しい生活様式に対応した観光を推進した結果、移動制限等がある中でも、2021年は目標値は下回っているものの緩やかな回復基調となっている。

指標③は、2022年6月以降、新型コロナウイルス感染症の影響に伴う国の入国制限措置等が段階的に緩和され、前年を上回る外国人来訪者数となったものの、依然として目標値を下回っている。

## 3 事業の進捗状況、成果指標等を踏まえた「施策の評価」

<p>△：やや遅れている</p>	<p>[参考]前年度 △：やや遅れている</p>
------------------	------------------------------

4 事業の進捗状況・課題・今後の方向性

●福岡の歴史資源の観光活用

博多旧市街プロジェクトの推進	
<b>進捗</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・歴史・伝統・文化などの魅力を観光資源として磨き上げるなど、観光地としての価値や認知を高める取組みを地域・民間事業者と連携しながら、博多旧市街エリアの観光推進に取り組んだ。</li> <li>〈観光地としての価値を高める取組み〉</li> <li>・交通局と連携し、地下鉄櫛田神社前駅の開業に合わせて駅構内における博多旧市街の魅力を伝える装飾を実施。</li> <li>・博多旧市街の特有性を生かした観光商品の登録制度である博多旧市街セレクションについて、官民連携によるプロモーションを実施。</li> <li>・歴史資源や名所をつなぎ、趣のある道路として美装化を実施。</li> <li>・地元クリエイターと連携した博多旧市街 PR ポスターを制作。</li> <li>・民間事業者による観光商品の造成を支援。</li> <li>・旧市街の雰囲気を感じられる灯籠をエリア内に設置することでまちなみの雰囲気を醸成</li> <li>・音声 AR を活用したガイドコンテンツの利用普及及び機能拡充を実施。               <ul style="list-style-type: none"> <li>* 博多旧市街セレクション登録商品数 R3n : 31 商品 → R4n : 44 商品</li> <li>* 「博多町家」ふるさと館の入館者数 R3n : 43,369 人 → R4n : 89,727 人</li> <li>* 福岡アジア美術館の入館者数 R3n : 202,186 人 → R4n : 531,278 人</li> <li>* 外国人来館者数（「博多町家」ふるさと館、福岡アジア美術館） R3n : 498 人 → R4n : 4,957 人</li> </ul> </li> </ul>
<b>課題</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・博多旧市街の認知度を向上させることが必要。</li> <li>・H29.12から、博多部にある価値ある歴史・伝統・文化の資源をストーリーとまちなみでつなぎ、「博多旧市街」エリアとして、市民や観光客が認知し楽しんでもらえる環境を整え、魅力を高める取組みを推進してきたが、国内外問わず認知度が低いため、観光資源として魅力を磨き、市民や観光客に情報発信していくことが必要。</li> </ul>
<b>今後</b>	<ol style="list-style-type: none"> <li>① 博多旧市街フェスティバルの魅力向上 地元や関係者と連携した旧市街の新たな定番として旧市街フェスを定着させていくための取組みを実施。</li> <li>② 博多旧市街ブランディング 交通機関・民間企業と連携したプロモーション強化。</li> <li>③ ふくおか歴史資源活用協議会における連携事業 博多旧市街エリアの文化財などの貴重な歴史資源を観光資源としてさらに磨き上げるとともに、魅力あるストーリーで分かりやすく発信し、持続可能な文化観光推進を図る。</li> </ol>

**鴻臚館・福岡城への集客向上に向けた取組み**

<p><b>進捗</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・H26n に策定した「国史跡福岡城跡整備基本計画」に基づき、潮見櫓建物復元整備工事に着手。</li> <li>・南丸多聞櫓の特別公開及びイベントを実施。             <ul style="list-style-type: none"> <li>*多聞櫓公開来場者数 R3n：1,869人 → R4n：4,621人</li> <li>*イベント来場者数 R3n：1,117人 → R4n：1,027人</li> </ul> </li> <li>・Web や SNS を活用した情報発信を実施。</li> <li>・福岡城の建物・石垣を利用したボランティア清掃活動を通じて史跡に親しむイベントを実施。</li> <li>・H30n に策定した「国史跡鴻臚館跡整備基本計画」に基づき、鴻臚館跡展示館の改修を実施。</li> <li>・福岡城むかし探訪館、三の丸スクエア、鴻臚館跡展示館の施設運営を行い、観光客の受入環境を整備するとともに、着物や乗馬、ドローンによる記念撮影などの体験コンテンツを運営。             <ul style="list-style-type: none"> <li>*福岡城むかし探訪館来館者数 R3n：13,015人 → R4n：24,085人</li> <li>*三の丸スクエア来館者数 R3n：14,591人 → R4n：34,234人</li> <li>*鴻臚館跡展示館来館者数 R3n：12,162人 → R4n：24,762人</li> <li>*外国人来館者数（上記3館合計）R3n：257人 → R4n：5,898人</li> </ul> </li> <li>・デジタル技術によって復元された福岡城を楽しむAR体験コンテンツの利用普及に向けた情報を発信。</li> <li>・エリア内事業者による、FaN Week に合わせた相互誘客・回遊促進策や、三の丸スクエアや櫓を活用した集客イベントを実施。</li> <li>・福岡市公式の「福岡城御城印」の新デザインを販売開始。</li> <li>・夜間も安全に散策できるような天守台までの園路照明や、イベント開催を促すためのイベント用電源の整備を実施。</li> <li>・福岡城整備基金             <ul style="list-style-type: none"> <li>*福岡城復元に当たり広く参加意識を醸成するため設置。H26.7 条例施行</li> <li>*積立総額：139,738,248円（R5.3月末時点）</li> </ul> </li> </ul>
<p><b>課題</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・史跡の周知を進めるとともに、史跡を活用した体験コンテンツの拡充など、市民や観光客が文化財を身近に感じるよう活用を図り、福岡の豊かで魅力ある観光資源の掘り起こしや磨き上げに取り組むことが必要。福岡城整備基金については、より広域的な募集に向けた取組みが必要。</li> </ul>
<p><b>今後</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・着物や乗馬などの体験コンテンツの磨き上げやARなどのデジタルコンテンツの活用、イベントやMICEレセプション等を実施するなどユニークベニューとしての活用、昼夜を通して散策を楽しめる景観づくりや案内機能の充実化などに取り組む。</li> </ul>

**文化財の観光資源としての活用促進**

<p><b>進捗</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・吉武高木遺跡「やよいの風公園」については、地域や史跡保存会等との連携を密接に図りながら、菜の花・コスモスの花畑公開に取り組んだ。また、SNS を活用した情報発信に努めた。             <ul style="list-style-type: none"> <li>*吉武高木遺跡「やよいの風公園」での菜の花・コスモス花畑公開 R3n：2回 → R4n：2回</li> </ul> </li> </ul>
<p><b>課題</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・吉武高木遺跡については、観光資源としての活用促進のため、積極的な広報や周知により、認知度を高めることが課題である。</li> </ul>
<p><b>今後</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・吉武高木遺跡等については、観光資源としての活用を促進するため、地域などと連携し、魅力あるイベントの開催や情報発信に努める。</li> </ul>

●魅力の磨き上げ

アジアと創る新たな魅力づくり（アジアンパーティ） <再掲7-3>	
進捗	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「アジアと創る」をコンセプトに、クリエイティブフェスタや福岡アジア文化賞のほか、アジアとクリエイティブをテーマとした民間企業・団体などの各種事業と連携を図り、アジアンパーティとして、9月～10月に実施（30事業、約42万人が参加）。コロナ下においても「アジア」「クリエイティブ」を体感できるようオンラインを活用した事業を実施。</li> <li>・クリエイティブフェスタでは、「クリエイティブ・エンターテインメント都市・ふくおか」を国内外に広くPRするため、福岡市役所西側ふれあい広場等にてイベントを実施。 *クリエイティブフェスタの来場者数 R3n：約40,000人 → R4n：約45,000人</li> </ul>
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アジアンパーティは、R4nに10年目を迎え、参加人数・認知度について一定の成果が得られているが、今後も引き続き事業の背景・趣旨や目的の周知に努める必要がある。</li> </ul>
今後	<ul style="list-style-type: none"> <li>・さらなる認知度向上、効果的な事業展開にむけて、民間企業・団体との連携強化を図る。</li> <li>・クリエイティブフェスタについては、アジアンパーティの中核イベントとして開催し、さらなる集客とブランディングを図る。</li> </ul>

集客交流拠点としての美術館の魅力向上 <再掲1-4>	
進捗	<ul style="list-style-type: none"> <li>・魅力的なコレクション展や特別展の開催、コレクションを核としたSNS等による広報・情報発信を積極的に行った。</li> <li>・R4nに創設した「福岡アートアワード」等の事業によりアーティストの成長支援を行うとともに、市民が身近にアートに触れる暮らしを推進した。 *施設利用者数 R3n：381,227人 → R4n：431,569人 *コレクション展外国人来館者数 R3n：1,350人 → R4n：14,932人 *R4.7に、開館以来の総観覧者数が2,500万人を突破した。</li> </ul>
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・時代や市民ニーズに応える集客交流拠点として、観光客やこれまであまり美術館を訪れていなかった方々に対するアプローチをより強化していくことが必要。</li> <li>・より多くの市民が美術館やアートを身近に感じることができるよう、市民が気軽にアートに触れ、楽しむ機会を新たに創出していくことが必要。</li> </ul>
今後	<ul style="list-style-type: none"> <li>・魅力ある展覧会の開催のほか、SNSなどによる積極的な情報発信を通して、広く美術館の魅力を伝えるとともに、美術館の認知度を高め、多くの市民や観光客が来館するような様々な取組みを行っていく。</li> <li>・集客イベントや子ども向け事業の充実により美術館の新しい魅力を創出し、市民も観光客も楽しめる施設としての充実を図る。</li> <li>・現代の多様な作品を収集することで、コレクションをアップデートする。新規購入作品については積極的に広報を行い、まちなかをアートで彩るFaN Weekなどにおいて公開することで、市民の鑑賞機会の充実を図るとともに、アートの魅力を国内外に発信する。</li> </ul>

**集客交流拠点としての福岡アジア美術館の魅力向上 <再掲1-4>**

<p><b>進捗</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「アートカフェ」の整備（H30.3）後は、積極的に活用を推進し、市主催や民間利用による様々なイベントやレセプション等に利用されている。新型コロナウイルス感染症予防のための「新しい生活様式」を徹底するとともに、SNSで積極的な広報・情報発信など、オンラインによる発信強化を行った。             <ul style="list-style-type: none"> <li>*施設利用者数 R3n：202,186人 → R4n：531,278人</li> <li>*外国人来館者数 R3n：465人 → R4n：1,951人</li> <li>*アートカフェ利用件数 R3n：29件 → R4n：57件</li> </ul> </li> <li>・R4nから「Artist Cafe Fukuoka」を舞台に「アーティスト・イン・レジデンス」事業を拡充し、アーティストが福岡を拠点により活躍できるよう支援するとともに、福岡の現代アート界の活性化を図り、市民が身近にアートに触れることができる暮らしを推進した。</li> </ul>
<p><b>課題</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「アートカフェ」を、多様なイベント等が開催される当館の新たな魅力空間として内外にさらに発信していくことが必要である。</li> <li>・より多くの市民が美術館やアートを身近に感じることができるよう、アーティストの育成や現代アート業界の活性化を行い、市民が気軽にアートに触れ、楽しむ機会を創出する必要がある。</li> </ul>
<p><b>今後</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「アートカフェ」で定期的に音楽演奏や伝統芸能公演等を実施するなど、多様な文化芸術に出会える、博多部の新たな集客交流拠点として、より一層、市民や観光客の認知度を高めていく。</li> <li>・更なる魅力向上のための調査・検討を行うとともに、世界の主要な美術賞を受賞したアジア人作家の良質で最先端の現代美術作品や、アジア近代美術史上重要で未収蔵の作家の作品を取得し、より多くの人がアジア美術館を訪れることを目指す。</li> </ul>

**集客交流拠点としての博物館の魅力向上 <再掲1-4>**

<p><b>進捗</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・博物館ホームページの見直しを行い、スマートフォン版の改修を行うとともに、利用案内を紙媒体からデータ化して、ホームページに掲載するなど、利便性を高めた。</li> <li>・特別展「独眼竜 伊達政宗展」（R4.10.8～R4.11.27）では、3年ぶりに対面での開会式を行った。観覧者数：21,187人</li> <li>・博物館グランドホールの空間を活かし、民間主催のファッションショーを開催した。             <ul style="list-style-type: none"> <li>*施設利用者数 R3n：183,453人 → R4n：263,355人</li> <li>*常設展示室外国人観覧者数 R3n：389人 → R4n：3,784人</li> </ul> </li> </ul>
<p><b>課題</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・歴史・文化や集客交流拠点としての認知度をさらに高めることが必要。</li> <li>・地域住民、観光客など多様なニーズに合わせた事業展開。</li> <li>・多言語案内表示の増設などのユニバーサル化を進め、インバウンド受入環境の充実を図る。</li> <li>・博物館リニューアル推進事業の方向性の検討。</li> </ul>
<p><b>今後</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・展示内容の充実や関係機関との連携強化などを図り、SNSなどさまざまなメディアを活用し積極的な広報を行うとともに、ホームページ等の多言語での情報提供を充実させる。</li> <li>・博物館の収蔵品や福岡の歴史・文化資源を地域と連動をさせながら、観光客も楽しめるような魅力的な事業を実施する。</li> <li>・幅広い観光客をターゲットとした文化観光の拠点や文化を次世代へ継承する拠点等としての機能向上を目指し、リニューアルの基本設計及び収蔵庫棟増築工事の設計等を実施する。</li> </ul>

**海辺を活かした観光振興事業（Fukuoka East&West Coast プロジェクト）**

進捗	（志賀島・北崎） ・海辺の観光周遊コースの形成に向けて、豊かな自然環境と調和した道づくりや、写真を撮りたくなる海辺の魅力づくり、立ち寄りスポットづくりの検討等を行った。 ＊北崎地区の歩道美装化工事（R3.4 完了）、無電柱化工事を実施 ＊志賀島地区の無電柱化工事を実施 ＊志賀島周辺エリア内でのレンタサイクル利用者数 R3n：2,764 人 → R4n：5,090 人
課題	・観光資源を最大限活かした魅力の向上に取り組むとともに、当該地区を中心とした観光周遊コースを形成することにより、周辺地区への消費喚起、地域経済の活性化にもつなげる必要がある。
今後	・引き続き、豊かな自然環境と調和した道づくりのため、無電柱化に取り組む。 ・サイクルツーリズムの推進に向けた観光案内板の設置やレンタサイクルの導入促進、観光客が楽しめる観光コンテンツの拡充に取り組むとともに、回遊を促進する立ち寄りスポットづくりの検討を行う。

**無電柱化の推進 <再掲 3-1>**

進捗	・地震発生時の緊急輸送道路の確保や、電柱の倒壊等による被害防止のため、無電柱化を推進。 ＊無電柱化整備延長 R3n:154.7km → R4n:155.6km 【目標R6n:168km】
課題	・近年における災害の激甚化・頻発化などを踏まえ、コスト縮減や事業のスピードアップにより、無電柱化を更に推進していく必要がある。
今後	・「福岡市無電柱化推進計画（R3～R7）」に基づき、低コスト手法の活用や設計・工事の効率化を図りながら、計画的かつ効率的に推進していく。

**ふくおかの“食”の磨き上げ <再掲 6-4>**

進捗	・市内産水産物の国内外への PR や販路拡大のため、「唐泊恵比須かき」を中心に海外プロモーション活動及び海外一流シェフやバイヤーの招聘活動を実施。 ・R4.3 に新たな輸出先として、シンガポールへ唐泊恵比須かきを初めて出荷し、スーパーや高級レストランでの提供が開始された。 ＊海外のシェフ等との商談回数 R3n：実施なし → R4n：6 回
課題	・唐泊恵比須かき、弘のサザエ、アサリ等の市内産水産物は香港の高級レストランへの出荷が進みつつあるものの、国内やその他の海外市場においては、知名度が高いとは言えない。
今後	・シンガポールや国内向けのブランド強化・販路拡大を推進する。

**緑化の啓発・推進 <再掲4-3>**

<p><b>進捗</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・緑化啓発・緑化推進をさらに進めるため、市民・企業等との共働により、花と緑を育て、彩りや潤いにあふれ、おもてなしと豊かな心が育まれるまち、フラワーシティ福岡を創る取組み、一人一花運動を推進。</li> <li>【緑化の啓発】 <ul style="list-style-type: none"> <li>*一人一花サミット <ul style="list-style-type: none"> <li>R4n：一人一花サミット来場者数 53,730 人、20 団体参加</li> <li>オンライン一人一花サミット Web サイトページビュー数（累計）2.9 万 PV（R2.11.11～）</li> </ul> </li> <li>*福博花しるべ事業 <ul style="list-style-type: none"> <li>R4n 春：一人一花スプリングフェス来場者数 R4n：20,760 人</li> <li>一人一花スプリングフェス出展協力団体 R4n：18 団体</li> <li>協賛企業 R4n：17 社</li> <li>植え付け協力 R4n：約 100 団体 約 2,000 人</li> </ul> </li> </ul> </li> <li>【緑化の推進】 <ul style="list-style-type: none"> <li>*おもてなし花壇の設置（スポンサー企業協賛による花壇づくり） <ul style="list-style-type: none"> <li>R3n：協賛 155 社 → R4n：協賛 165 社</li> </ul> </li> <li>*ボランティア花壇団体数(街路) R3n：計 204 団体 → R4n：計 224 団体</li> <li>*ボランティア花壇面積(㎡) R3n：9,156 ㎡ → R4n：9,961 ㎡</li> <li>*フラワーボックス設置数 R3n：464 基 → R4n：488 基</li> <li>*緑化助成 R4n：申請件数 42 件、緑化面積 1,351 ㎡、助成実績 685 万円</li> <li>*一人一花パートナー花壇登録団体数 R3n：498 団体 → R4n：576 団体</li> <li>*一人一花活動サポート企業数 R3n：13 社 → R4n：15 社</li> <li>*一人一花メディアパートナー数 R3n：14 社 → R4n：17 社</li> </ul> </li> <li>・良好な都市景観の形成や都市環境の改善を図り、緑豊かなまちづくりを推進するため、地域や企業と共働し、都心部をはじめとして全市域における植樹運動を展開する、都心の森 1 万本プロジェクトを始動（R5.2～）。</li> <li>・美しく安全で快適な都市環境の形成を図るため、公園や街路樹等の整備・管理や緑地の保全に取り組むとともに、地域による公園の愛護活動への支援を実施。</li> </ul>
<p><b>課題</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市民や企業、行政による花づくりの広がりが実感できるようになってきたが、「花による共創のまちづくり」が定着するよう、持続可能な仕組みづくりが必要。</li> </ul>
<p><b>今後</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市民の花づくり活動について、支援を継続するとともに、活動の定着に向けて、新たなメニューやきっかけの場などの仕組みづくりを進め、これらの取組みに関して市民への効果的な情報発信を行う。</li> <li>・都心の森 1 万本プロジェクトについては、都心部においては、天神ビッグバンや博多コネクティッドによりまちが大きく生まれ変わっていく中で、公園や街路空間における居心地の良い空間の創出や民間ビルの建替え時に「みどり」等の誘導等を行うとともに、新たな樹木の植樹や市民への苗木配布等を実施していく。</li> </ul>

**動植物園再生事業 <再掲4-4>**

<p><b>進捗</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アジアゾウの受入れに向けた環境整備を実施。</li> <li>・一人一花運動の拠点の核となるボタニカルライフスクエアを供用開始（R5.3）。</li> </ul>
<p><b>課題</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・動物福祉や管理安全面に配慮しつつ、来園者の視点に立った魅力づくりや「また来たい」と思わせる特別な仕掛けづくりが必要。</li> </ul>
<p><b>今後</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・動物と地球にやさしい飼育及び植生環境と来園者の更なる利便性の向上を行うとともに、まちと自然が調和した快適な都市型動植物園へトリニューアルを推進。</li> <li>・アジアゾウ受入れに向け、関係機関との調整を継続して実施する。</li> <li>・更に魅力ある施設となるよう、動植物園再生基本計画の見直し等の検討を進める。</li> <li>・一人一花運動の拠点としての機能強化を進める。</li> </ul>

特色ある公園づくり事業 <再掲4-4>	
進捗	・高宮南緑地（旧高宮貝島家住宅）について、指定管理者による管理運営を開始し、歴史的建築物を活用したおもてなしや交流の場づくりを行った。
課題	・特になし。
今後	・高宮南緑地（旧高宮貝島家住宅）については、おもてなし施設として、官民連携して良好な管理運営に努める。

## 施策5-2 緑と歴史・文化のにぎわい拠点づくり

### 1 事業の進捗状況

★は政策推進プランに掲げる目標値等

●市民の憩いと集客の拠点づくり（大濠公園・舞鶴公園の一体的な活用等）

**セントラルパーク構想の推進**

- ・セントラルパーク基本計画（R1.6策定）に基づき、大濠公園と舞鶴公園の一体的な整備や活用を推進

**ポテンシャルを最大限に活かす利活用の推進①（賑わいづくり）**

- ・イベントの年間開催日数 R3n : 65日\* → R4n : 105日\*  
 ※新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため開催中止あり
- ・鴻臚館跡展示館来館者数 R3n : 12,162人 → R4n : 24,762人

**ポテンシャルを最大限に活かす利活用の推進②（市民・企業等との共働）**

- ・福岡城整備基金寄付 積立総額 : 139,738,248円（R5.3月末時点）

**利活用を支える体制づくり**

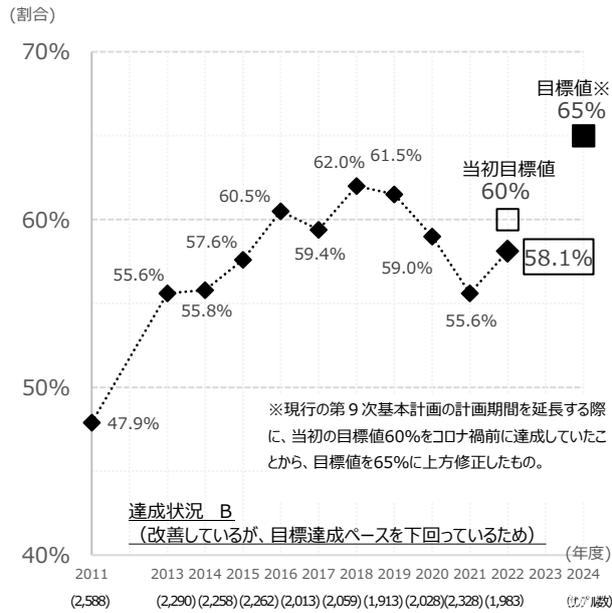
- ・大濠・舞鶴公園連絡会議の開催回数 R3n : 2回 → R4n : 2回

**利活用を支える機能の充実**

- ・サクラやアジサイ等、史跡や公園における見所づくりを実施
- ・福岡高等裁判所跡地の公園整備に着手
- ・回遊性の向上のための整備を実施（園路や階段のバリアフリー化）
- ・城内住宅の移転率 R3n : 80.1% → R4n : 81.1%

2 成果指標等

①過去3年間に福岡城跡（舞鶴公園）に行ったことがある市民の割合



出典：福岡市総務企画局「基本計画の成果指標に関する意識調査」

<指標の分析>

これまでの緑と歴史・文化に関するイベントや、指定管理者の自主事業の充実、多様な民間イベント受け入れなどによる取組みの推進が、認知度向上に寄与し、指標①の堅調な推移に現れている。また、新型コロナウイルス感染症によるイベントの自粛等の影響からの回復傾向がみられる。

3 事業の進捗状況、成果指標等を踏まえた「施策の評価」

◎：順調	[参考]前年度 ◎：順調
------	-----------------

4 事業の進捗状況・課題・今後の方向性

●市民の憩いと集客の拠点づくり（大濠公園・舞鶴公園の一体的な活用等）

セントラルパーク構想の推進	
進捗	・セントラルパーク基本計画（R1.6策定）に基づき、大濠公園と舞鶴公園の一体的な整備や活用を推進。
課題	・鴻臚館の特性を活かした現代的な活用や整備内容の詳細な検討が必要。
今後	・セントラルパーク基本計画に基づき、市民の憩いと集客の拠点づくりを目指す。 ・わかりやすい情報発信に努め、身近な史跡としての公開・活用を進めていく。

ポテンシャルを最大限に活かす利活用の推進①（賑わいづくり）	
進捗	<ul style="list-style-type: none"> <li>・舞鶴公園指定管理者の自主事業により、新たな利活用を推進した。 <ul style="list-style-type: none"> <li>*福岡城秋の舞鶴公園で遊ぶの実施（自治会・市民ボランティア・西日本短期大学・市科学館・障がい者支援施設との連携、地域NPO法人との共催等）</li> <li>*ラジオ体操実施により地域コミュニティの場創出（21日間、延594名参加）</li> <li>*マルシェ事業実施により日常の賑わいづくり（8回実施、延出店者73店舗）</li> <li>*キッチンカー出店のサービスを実施（106日間延出店台数221台）</li> <li>*舞鶴公園ネイチャーウォッチング講座の定期実施（月1回） 講座修了者のうち希望者を運営ボランティアとして受入れ持続可能な仕組みを実施</li> </ul> </li> <li>・季節毎の賑わいを創出するため、多様な民間イベントの受入れ等を実施。 <ul style="list-style-type: none"> <li>*イベントの年間開催日数 R3n：65日 → R4n：105日</li> <li>*アウトドアデイジャパン（アウトドアギアの展示、ワークショップ）</li> <li>*カレーフェス（カレー店やマルシェの出店、音楽ステージ）</li> <li>*わんだふる（ドッグイベント。ドッグマルシェ、ステージ、飲食など）など</li> </ul> </li> <li>・ワンヘルスの推進や公園の魅力向上のため、県と連携してワンヘルスパークを開設（R4.11）。</li> <li>・三の丸スクエアや福岡城むかし探訪館において着物や乗馬、ドローンによる記念撮影などの体験コンテンツを実施。</li> <li>・エリア内事業者による、博物館の特別展に合わせた相互誘客・回遊促進策や、鴻臚館広場での集客イベントを実施。</li> <li>・福岡市公式の「福岡城御城印」の官兵衛バージョンを販売開始。</li> <li>・南丸多聞櫓の特別公開及びイベントを行った。 <ul style="list-style-type: none"> <li>*多聞櫓公開来場者数 R3n：1,869人 → R4n：4,621人</li> <li>*イベント来場者数 R3n：1,117人 → R4n：1,027人</li> </ul> </li> <li>・福岡城の建物・石垣を利用したボランティア清掃活動を通じて史跡に親しむイベントを実施した。</li> <li>・鴻臚館跡展示館来館者数 R3n：12,162人 → R4n：24,762人</li> </ul>
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市民や観光客が四季を通じて楽しめるようさらなる取組みが必要。</li> <li>・現地に電気・給排水設備が無いことがイベント主催者の負担になっている。</li> <li>・鴻臚館・福岡城エリアのさらなる魅力や認知度の向上が必要。</li> <li>・史跡を活用した体験コンテンツの開発など、市民や観光客が福岡の歴史・文化を巡る環境整備や集客促進が必要。</li> </ul>
今後	<ul style="list-style-type: none"> <li>・都心部最大級の広場空間（舞鶴公園三ノ丸広場・鴻臚館広場）を活用しつつ、国史跡鴻臚館跡や福岡城跡、四季折々の花々を観光資源として活かしていくため、福岡城さくらまつりを核とした多様なイベントの充実により、季節を通じた賑わい創出に取り組む。</li> <li>・キッチンカー及びマルシェの定期的な実施に向けた取組みを推進する。</li> <li>・着物や乗馬などの体験コンテンツの磨き上げやARなどのデジタルコンテンツの活用、イベントやMICEレセプション等を実施するなどユニークベンチャーとしての活用、昼夜を通して散策を楽しめる景観づくりや案内機能の充実化などに取り組む。</li> </ul>

**ポテンシャルを最大限に活かす利活用の推進②（市民・企業等との共働）**

進捗	<ul style="list-style-type: none"> <li>市民と一体となって福岡城整備を推進する「福岡城整備基金」について、ふるさと納税制度を活用した福岡市ホームページによる周知、市内文化関連施設等へのチラシの設置及び本庁舎等での募金箱の設置、ならびに歴史系雑誌への広告掲載や、寄付者への事業報告書の送付など、市内外のPRに取り組むことで、基金の収益及び認知度の向上を図った。 *積立総額：139,738,248円、寄付件数：2,197件（R5.3月末時点）</li> </ul>
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>福岡城整備基金については、より広域的な募集に向けた取組みが必要。</li> </ul>
今後	<ul style="list-style-type: none"> <li>福岡城整備基金への寄付のリピーターを増やすとともに、イベント等と連携したPRにより、基金の認知度を上げる取組みを推進する。 *城内イベントと連携した寄付等の拡充 *リピーター確保に向けた寄付者への情報発信の強化や、歴史系雑誌等への広告掲載 *SNS等の各種媒体を活用した広報の強化</li> </ul>

**利活用を支える体制づくり**

進捗	<ul style="list-style-type: none"> <li>大濠公園と舞鶴公園の一体的な運用等に関する情報共有や協議検討を行うことを目的として、市と県等による大濠・舞鶴公園連絡会議を開催。 *開催回数 R3n：2回 → R4n：2回</li> <li>大濠公園と舞鶴公園の一体的な利活用を目的とした大濠・舞鶴公園事業者による連絡会議を開催。 *開催回数 R3n：1回 → R4n：1回</li> <li>舞鶴公園指定管理者の自主事業の充実により、市民・企業との共働を促進した。 *小学校との連携強化を図るため、出前講座メニューを作成し、近隣小学校に配布 *市民ボランティアと共働で、花壇植付け等を実施 *企業ボランティア等と協働で、石垣除草・草刈り・剪定を実施</li> <li>福岡市造園建設業協会・福岡市緑化協会のボランティアによる石垣除草及び松の剪定を実施。</li> </ul>
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>両公園内の複数の施設管理者や関係部局及び民間事業者等の公園に関わる様々な主体が連携した一体的な管理運営の実現に向け、大濠・舞鶴公園連絡会議の充実やさらなる市民・企業等との共働の取組みが必要。</li> </ul>
今後	<ul style="list-style-type: none"> <li>日常的に県民・市民、NPO、企業の知恵・労力・資金などを広く受入れ、効果的に活用していく仕組みづくりの検討を推進する。</li> </ul>

**利活用を支える機能の充実**

進捗	<ul style="list-style-type: none"> <li>史跡や公園としての魅力向上のため、見所づくりを実施した。 *サクラの名所づくりに向け、剪定・土壌改良等を実施 *アジサイの見所づくりに向け、市民と共働でアジサイを植樹 *ツツジ園の見所づくり（ゲンカイツツジの育成） *コスモス畑・ナノハナ畑の育成による季節の花見どころ創出 *梅園土壌改良実施により梅の花付き改良及び開花調査継続</li> <li>福岡高等裁判所跡地の公園整備に着手した。 *事業期間：H30n～R5n、債務負担行為議決済（H26.9月）</li> <li>回遊性の向上のため、園路整備（天守台～三の丸）や階段のバリアフリー化を実施した。</li> <li>夜間の回遊性の向上を図るため、園路照明の整備を実施した。</li> <li>城内住宅の移転を実施した。 *移転率 R3n：80.1%（157/196区画） → R4n：81.1%（159/196区画）</li> </ul>
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>利活用を支える機能の充実については、将来の多様なニーズにも対応できる計画とするとともに、計画的な財源確保が必要。</li> <li>鴻臚館・福岡城の遺構の全容解明が必要。</li> </ul>
今後	<ul style="list-style-type: none"> <li>基本計画に基づき、計画的に公園整備や史跡の発掘調査・復元整備を推進する。</li> <li>福岡高等裁判所跡地の整備について、関係機関と連携しながら推進する。</li> <li>城内住宅について、計画的に移転事業を推進する。</li> </ul>

**施策5-3 情報アクセスや回遊性など、来街者にやさしいおもてなし環境づくり**

**1 事業の進捗状況**

★は政策推進プランに掲げる目標値等

●おもてなしの向上

**まち歩きガイド内容の拡充**

- ・まち歩きコース数 R3n : 61 コース → R4n : 67 コース

**官民共働による外国人の受入環境整備**

- ・公衆無線 LAN サービス提供拠点数 R3n : 114 ケ所 → R4n : 105 ケ所

**観光情報サイト「よかなび」による質の高い観光情報の提供**

- ・「イベント情報」や「ツアー情報」等の観光情報を発信
- ・「よかなび」でのイベント及びツアー情報発信件数 R3n : 210 件 → R4n : 303 件

●交通利便性や都心回遊性の向上

**快適で高質な都心回遊空間の創出**

- ・はかた駅前通りの魅力づくりや回遊性向上に向けた道路整備 (R5.3 : 完了)
- ・西中洲の魅力づくりに向けた石畳整備と景観誘導 (R4n : 石畳整備一部区間完了)
- ・清流公園・春吉橋迂回路橋上広場における Park-PFI 制度の活用 (R5.3 : 公募開始)
- ・リバーフロントNEXTを県と連携して推進 (R4.10 : 共同発表)

**天神通線整備事業 <再掲8-1>**

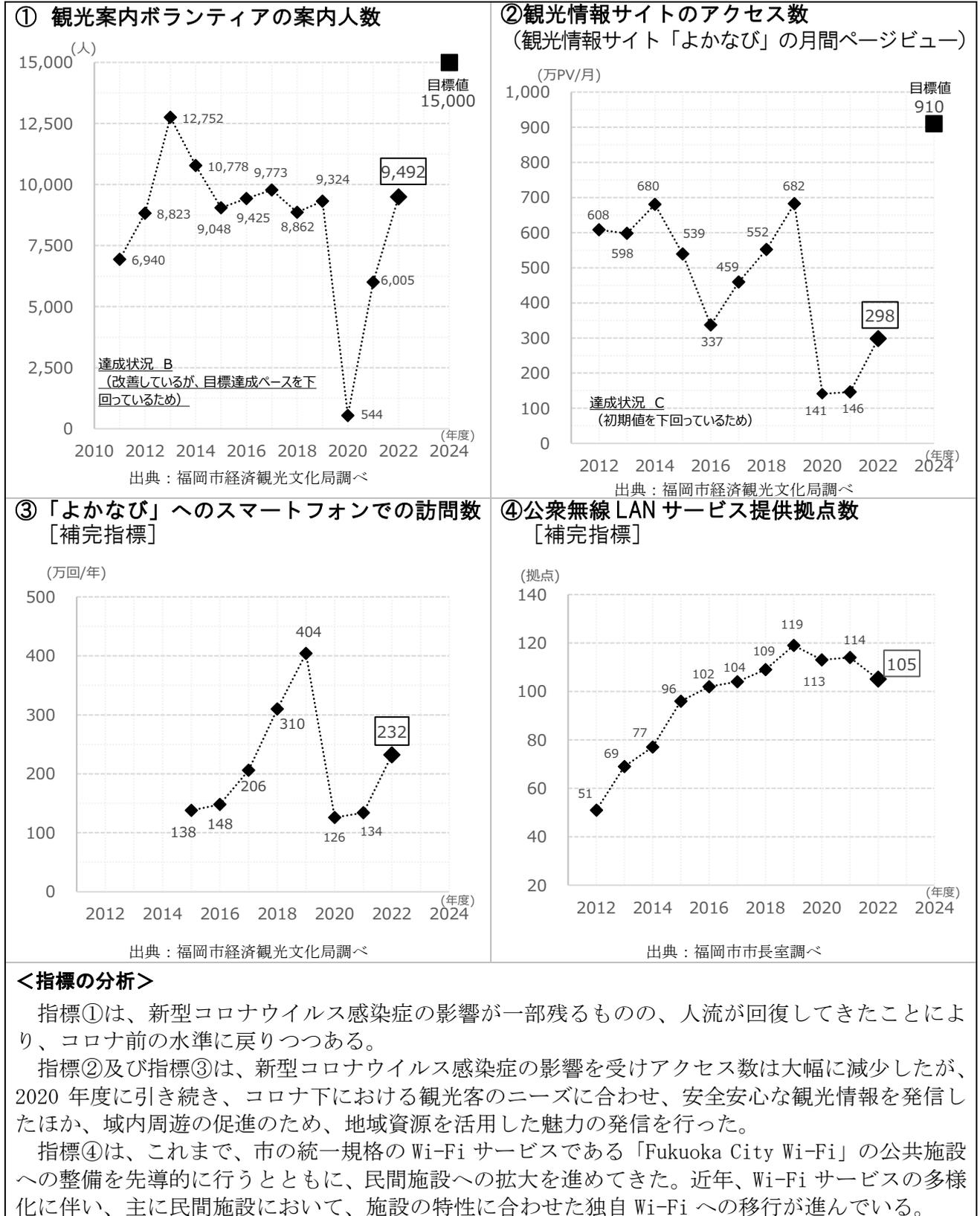
- ・北側工区の一部用地取得

**観光バス受入環境の改善 <再掲5-6>**

- ・樋井川河畔緑道観光バス駐車場の利用台数 R3n : 0 台<sup>※</sup> → R4n : 0 台<sup>※</sup>

※新型コロナウイルス感染症の影響により外航クルーズ客船が寄港しなかったため。

2 成果指標等



3 事業の進捗状況、成果指標等を踏まえた「施策の評価」

<p>△：やや遅れている</p>	<p>[参考]前年度 △：やや遅れている</p>
------------------	------------------------------

#### 4 事業の進捗状況・課題・今後の方向性

##### ●おもてなしの向上

まち歩きガイド内容の充実	
進捗	<ul style="list-style-type: none"> <li>安全安心に配慮し、観光客の依頼に応じた派遣ガイド・企画募集型まち歩きガイド・オンラインツアーや、市の観光施設等での観光案内・定時ツアーを実施した。 <ul style="list-style-type: none"> <li>*案内件数 R3n：329件 → R4n：777件</li> <li>*案内人数 R3n：6,005人 → R4n：9,492人</li> <li>*まち歩きコース数 R3n：61コース → R4n：67コース</li> </ul> </li> <li>ボランティアの新規募集を実施した。(R5.4登録13人)</li> <li>英語ツアーガイドを養成し、福岡城及び博多旧市街の英語ガイド事業を開始した。 <ul style="list-style-type: none"> <li>*利用実績：5件、26名</li> </ul> </li> </ul>
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>まち歩きガイドの案内人数増加に向けて、観光客の様々なニーズに応じた観光案内を行う必要がある。</li> <li>外国人観光客の受入体制について、外国語対応可能な人材が不足している。</li> </ul>
今後	<ul style="list-style-type: none"> <li>観光案内ボランティアの新規募集によるまち歩きガイドの充実や、都心部以外の地域における新たな地域の魅力を発掘し、新コースを開発することにより、ガイド内容の拡充及び市内の回遊促進を図る。</li> <li>外国語対応可能な人材の育成及び確保を行うとともに、他団体との連携やIoTの活用など、インバウンド向け観光案内の仕組み作りを行う。</li> <li>福岡の歴史や文化財を活用した体験コンテンツと連携して、まち歩きのさらなる魅力向上を図る。</li> <li>SNSの活用など、双方向性や拡散力を重視した情報発信に努めていく。</li> </ul>

官民共働による外国人の受入環境整備	
進捗	<ul style="list-style-type: none"> <li>無料公衆無線LANサービス「Fukuoka City Wi-Fi」の拠点拡大を官民共働により推進。 <ul style="list-style-type: none"> <li>*公衆無線LANサービス提供拠点数 R3n：114ヶ所 → R4n：105ヶ所</li> </ul> </li> <li>世界水泳選手権福岡大会にむけて、多様な食文化や多言語、キャッシュレス等に対応する飲食店、小売店、体験コンテンツなどの「おもてなし店舗」を募集し、店舗情報を発信している。</li> </ul>
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>受入環境については、観光施設や宿泊施設、交通機関、飲食店等と連携して取り組む必要がある。</li> </ul>
今後	<ul style="list-style-type: none"> <li>大規模なMICE開催のレガシーを、今後開催予定の大型MICEへと継承し、都市ブランド力のより一層の向上を目指し、官民一体で外国人観光客の受入環境整備の充実を図る。</li> </ul>

観光情報サイト「よかなび」による質の高い観光情報の提供	
進捗	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国内外への情報発信として、5言語（日本語、英語、韓国語、中文簡体、中文繁体）で展開するとともに、主要な情報については、フランス語、ドイツ語、スペイン語、オランダ語、タイ語、ベトナム語の6言語でも発信している（計11言語）。</li> <li>・トップページでは、来福者の回遊性の向上や地域における消費拡大に繋げていく観点から、「イベント情報」や「ツアー情報」のほか、国内の全国旅行支援や海外からの入国制限の緩和などに対応した市内のおすすめ観光情報などを発信している。</li> </ul> <p style="text-align: center;">* 「よかなび」でのイベント及びツアー情報発信件数 R3n：210件 → R4n：303件</p>
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・観光による経済効果が様々なエリアに行き渡るよう、情報発信に取り組んでいくことが必要。</li> </ul>
今後	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「よかなび」では、国内へ向けた情報発信として、市内の魅力あるコンテンツや最新の「イベント情報」、「ツアー情報」等を継続的に発信し、福岡市内における回遊性の向上や地域における消費拡大に繋げていく。外国人観光客に向けては、R5.5に公開した観光グローバルサイトで写真や動画などのコンテンツを発信することなどにより、海外からの誘客を図っていく。</li> </ul>

●交通利便性や都心回遊性の向上

快適で高質な都心回遊空間の創出	
進捗	<ul style="list-style-type: none"> <li>・庁内横断的な検討組織を設置し、事業間の調整・情報共有などを通じて事業の優先順位の整理や関係課と連携した事業計画の立案・予算化など、事業の全体最適化を推進。</li> </ul> <p>&lt;具体事業&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>* はかた駅前通りの魅力づくりや回遊性向上に向けた道路整備（R5.3：完了）</li> <li>* 西中洲の魅力づくりに向けた石畳整備（R4n：石畳整備一部区間完了）と景観誘導（H30.10 西中洲地区景観誘導街づくり計画登録）</li> <li>* 清流公園・春吉橋迂回路橋上広場におけるPark-PFI制度の活用（R5.3：公募開始）</li> <li>* リバーフロントNEXTを県と連携して推進（R4.10：共同発表）</li> </ul>
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・都心部の回遊性向上に向けた事業の実施にあたっては、主要プロジェクトの開業・供用時期や民間ビルの開発機運などを捉えた戦略的な推進が必要。</li> <li>・リバーフロントNEXTについては、エリア全体の回遊性向上や積極的な情報発信が必要。</li> </ul>
今後	<ul style="list-style-type: none"> <li>・引き続き、都心回遊に関する関係者間の事業の調整・情報共有とともに、周辺のまちづくりの動向等を踏まえ、事業の具体化に向けた検討を着実に推進する。</li> <li>・リバーフロントNEXTを推進するため、県や関係部局等と密に連携しながら、施策効果の最大化を図る事業内容の検討や積極的な情報発信を行う。</li> </ul>

天神通線整備事業 <再掲8-1>	
進捗	<ul style="list-style-type: none"> <li>・都市計画決定（南側：H25.8 告示、北側：R2.9 告示）。</li> <li>・北側工区については、R2n から事業着手し、用地取得を進めている。</li> </ul>
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・北側工区については、周辺のまちづくりと併せた道路整備が必要。</li> <li>・整備効果を最大限発揮するため南側工区の早期整備が必要。</li> </ul>
今後	<ul style="list-style-type: none"> <li>・北側工区については、まちづくりと一体となった整備を進める。</li> <li>・南側工区については、R5n から事業着手し、整備を進める。</li> </ul>

**観光バス受入環境の改善 <再掲5-6>**

<p><b>進捗</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・福岡タワー周辺における観光バスショットガン方式の運用。</li> <li>・樋井川河畔緑道観光バス駐車場の利用台数 R3n : 0 台<sup>※</sup> → R4n : 0 台<sup>※</sup> ※新型コロナウイルス感染症の影響により外航クルーズ客船が寄港しなかったため。</li> <li>・博多区御供所地区の出来町公園における観光バス乗降場の運用。</li> </ul>
<p><b>課題</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・クルーズ客のツアーが一部の商業施設や観光地に集中しているため、市内で交通混雑が発生する。</li> </ul>
<p><b>今後</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・寄港地観光手配予約システムの活用などによる訪問先・時間の分散化に取り組む。</li> <li>・クルーズ船観光バスによる交通混雑については、博多港クルーズ船受入関係者協議会や県警などとも連携し、対策に取り組む。</li> <li>・クルーズ市場の動向等を注視・分析し、その回復状況なども踏まえながら取り組む必要がある。</li> </ul>



## 施策5-4 交流がビジネスを生むMICE拠点の形成

### 1 事業の進捗状況

★は政策推進プランに掲げる目標値等

#### ●MICE機能の強化

**ウォーターフロント地区内でのコンベンション機能の強化 <一部再掲8-1>**

★マリンメッセ福岡において歩行者用上屋の整備を実施

**都心拠点間の交通ネットワーク強化 <再掲4-5>**

・都心循環 BRT における利用促進方策などの検討

#### ●MICE誘致の推進

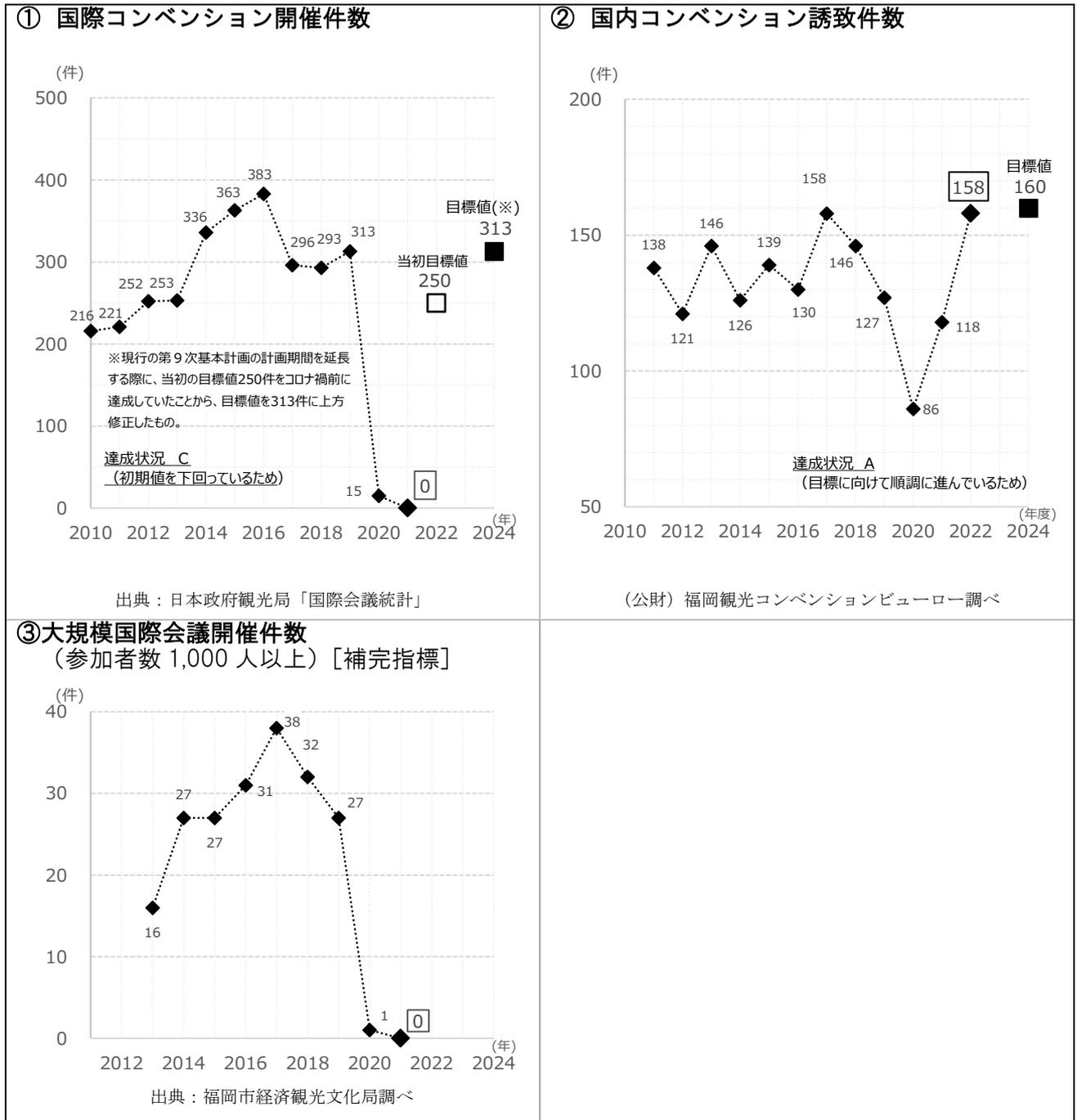
**戦略的なMICEの誘致やビジネス振興**

★海外見本市等商談件数 R3n : 179 件 → R4n : 135 件

・コンベンションサポート件数 R3n : 87 件 → R4n : 102 件

・国家戦略道路占用事業（ストリートパーティー等）実施実績 R3n : 1 件 → R4n : 7 件

2 成果指標等



<指標の分析>

指標①、指標③ともに、2020年以降は例年の件数を大きく下回っている。これは新型コロナウイルス感染症の影響に伴う国の入国制限措置等により、コンベンションの開催や外国人参加者が大幅に減少していることが要因である。

指標②は、新型コロナウイルス感染症の影響で誘致活動が制限されたことなどにより件数が減少したことから、誘致力強化のため Meeting Place Fukuoka の体制を強化し、関係団体との連携強化やオンラインによる誘致活動に取り組むとともに、引き続きオンラインとリアルを組み合わせたハイブリッド開催への支援を行うなど、ポストコロナに向けた取組みを推進した。

3 事業の進捗状況、成果指標等を踏まえた「施策の評価」

△：やや遅れている	[参考]前年度 △：やや遅れている
-----------	----------------------

#### 4 事業の進捗状況・課題・今後の方向性

##### ●MICE機能の強化

ウォーターフロント地区内でのコンベンション機能の強化 <一部再掲8-1>	
進捗	・マリンメッセ福岡において歩行者用上屋の整備を実施。
課題	・MICE機能の強化については、感染症対策などの視点を加えるとともに、MICEの動向を注視しながら適切に対応していく必要がある。
今後	・マリンメッセ福岡において、パブリックアートの制作・設置によりおもてなし空間の創出に取り組む。 ・感染症対策などの視点を踏まえたMICE機能強化に向けた検討等を行う。

都心拠点間の交通ネットワーク強化 <再掲4-5>	
進捗	・都心循環BRTにおける利用状況の現地調査や、市民の利用意向等を把握するためのWebアンケート調査を実施。
課題	・バス事業者と連携しながら、都心循環BRTの利便性向上や利用促進に取り組んでいくことが必要。
今後	・当面は現在の15分間隔運行を続けながら、Webアンケート調査の結果や、七隈線延伸の利用状況等を踏まえ、引き続き、バス事業者と連携しながら都心循環BRTの利便性向上や利用促進に取り組む。

##### ●MICE誘致の推進

戦略的なMICEの誘致やビジネス振興	
進捗	・コロナ下においても、将来的なMICE開催につなげていくため、Meeting Place Fukuokaを中心に、オンラインなどを活用しながら誘致活動を行うとともに、安全対策やハイブリッド開催への支援などに取り組んだ。 *海外見本市等商談件数 R3n: 179件 → R4n: 135件 *コンベンションサポート件数 R3n: 87件 → R4n: 102件 *国家戦略道路占用事業（ストリートパーティー等）実施実績 R3n: 1件 → R4n: 7件
課題	・市内でMICEが開催され、地域経済の活性化に繋がるよう、ポストコロナに対応したMICE誘致・開催支援が必要。
今後	・地域経済のコロナからの回復とさらなる活性化に向けて、今後のMICEの動向やニーズを把握するとともに、関係機関と連携し、MICEの誘致・支援に取り組む。 ・必要に応じた感染症対策を講じた上で、国家戦略特区の道路活用などユニークベニューの活用を進め、MICE開催地としての魅力向上に努める。



**施策5-5 国際スポーツ大会の誘致やプロスポーツの振興**

**1 事業等の進捗状況**

★は政策推進プランに掲げる目標値等

●国際スポーツ大会等の開催地・合宿地としての誘致

国際スポーツ大会等の開催地としての取組み

★世界水泳選手権福岡大会及び世界マスターズ水泳選手権九州大会の開催に向けた準備

●プロスポーツの振興

福岡を拠点としたプロスポーツチームに触れる機会づくり

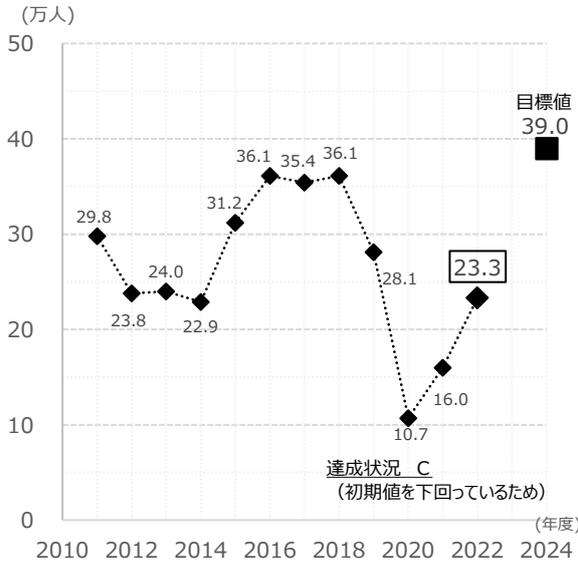
- ・アビスパ福岡によるサッカー教室等の開催件数 R3n : 117 件 → R4n : 128 件
- ・観戦招待事業 R3n : 4 件 → R4n : 4 件
- ・心の教育プロジェクト R3n : 14 件 → R4n : 15 件

大相撲九州場所等に触れる機会づくり

- ・大相撲九州場所の広報支援として、街路灯バナーの掲出等を実施
- ・市内小・中・特別支援学校の観戦招待事業を実施 R3n : 0 校 (未実施) → R4n : 14 校
- ・こども観戦招待事業を実施 R3n : 0 人 (未実施) → R4n : 636 人

2 成果指標等

①福岡市を活動拠点とするプロスポーツチームなどの主催試合観客数  
(福岡ソフトバンクホークスを除く)



出典：福岡市市民局調べ

②スポーツ観戦の機会への評価  
(福岡市はスポーツ観戦の機会に恵まれた都市だと思える市民の割合)



出典：福岡市総務企画局「基本計画の成果指標に関する意識調査」

<指標の分析>

指標①②ともに前年度から増加している。これは、新型コロナウイルス感染症に関するプロスポーツ等観戦時の制限が緩和されたこと等によるものと考えられる。

3 事業の進捗状況、成果指標等を踏まえた「施策の評価」

○：概ね順調	[参考]前年度 ○：概ね順調
--------	-------------------

#### 4 事業の進捗状況・課題・今後の方向性

##### ●国際スポーツ大会等の開催地・合宿地としての誘致

国際スポーツ大会等の開催地としての取組み	
進捗	<ul style="list-style-type: none"> <li>・世界水泳選手権福岡大会及び世界マスターズ水泳選手権九州大会の開催準備               <ul style="list-style-type: none"> <li>*国際水泳連盟(FINA)の名称が世界水泳連盟(World Aquatics)に変更されたことに伴い、大会名称を下記の通り変更。                   <ul style="list-style-type: none"> <li>世界水泳選手権 2023 福岡大会</li> <li>世界マスターズ水泳選手権 2023 九州大会</li> </ul> </li> <li>*R3nに引き続き、政府の「経済財政運営と改革の基本方針」(骨太の方針)に世界水泳選手権福岡大会が位置付け(R4.6)。</li> <li>*博多どんたく港まつりでの「世界水泳どんたく隊」のパレード参加(R4.5)、世界水泳選手権ブダペスト大会の金メダリスト等を招いた開幕1年前トークイベント(R4.7)等、気運醸成の取組みを実施。</li> <li>*世界水泳選手権のチケット販売を開始。(R5.2)</li> <li>*世界水泳選手権及び世界マスターズ水泳選手権のエントリーを開始。(R5.2、R5.3)</li> <li>*企業版ふるさと納税等を活用した寄付実績78件(R4n)。</li> </ul> </li> </ul>
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新規国際スポーツ大会等の開催に関する情報収集を行っていく必要がある。</li> <li>・世界水泳選手権福岡大会及び世界マスターズ水泳選手権九州大会の開催に向け、万全の受け入れ環境を整備するとともに、市負担の縮減のため、世界水泳連盟との協議等による支出の抑制と公的助成、寄付・協賛金の獲得による収入の最大化が必要。</li> <li>・市民に夢や希望を与え、青少年の健全育成や市民スポーツの振興に寄与するため、トップレベルの競技を観る機会だけでなく、実際にスポーツを体験する機会の提供も必要。</li> </ul>
今後	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各種競技団体等と連携し、新規の国際スポーツ大会や全国レベルのスポーツ大会の誘致などにより、市民が一流のスポーツに触れ、楽しむことができる機会を創出する。</li> <li>・2023年開催の世界水泳選手権福岡大会については、世界水泳連盟、日本水泳連盟等の大会関係者と協議を行いながら選手・観客などの受け入れ環境を整備し、円滑な大会運営を行う。</li> <li>・市民が高いレベルのスポーツに触れ、自らもスポーツを体験できる機会を創出するため、国際スポーツ大会などに参加するトップアスリートとの交流会等の企画を推進していく。</li> </ul>

●プロスポーツの振興

福岡を拠点としたプロスポーツチームに触れる機会づくり	
進捗	<ul style="list-style-type: none"> <li>福岡市に拠点を置く、アビスパ福岡、福岡ソフトバンクホークス、ライジングゼファーフクオカ等と連携して、市民や選手・監督・コーチが触れ合うスポーツイベント（スタージャンプ福岡）を実施。</li> <li>アビスパ福岡と連携し、子どもから高齢者までを対象としたサッカー教室等の実施や市民の観戦招待事業等を通じて、市民がスポーツに触れる機会を創出。               <ul style="list-style-type: none"> <li>*サッカー教室の開催件数 R3n：117件 → R4n：128件</li> <li>(内訳)                   <ul style="list-style-type: none"> <li>・親子サッカー教室（小学生とその保護者を対象とした選手・コーチによる教室） R3n：0件 → R4n：0件（新型コロナウイルス感染症の影響で実施なし）</li> <li>・少年少女サッカー教室（幼児、小中学生の団体を対象としたコーチによるサッカー指導） R3n：91件 → R4n：102件</li> <li>・アビスパ健康教室（およそ60歳以上を対象とした運動啓発教室） R3n：12件 → R4n：12件</li> <li>・ブラインドサッカー教室（小学生以上を対象としたコーチ及びブラインドサッカー選手による体験教室） R3n：14件 → R4n：14件</li> </ul> </li> <li>*観戦招待事業（小中高生とその保護者をホームゲームに招待） R3n：4件 → R4n：4件 ※区観戦招待を含む</li> <li>*心の教育プロジェクト（市内小学校での選手・コーチによる特別授業） R3n：14件 → R4n：15件</li> </ul> </li> </ul>
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>アビスパ福岡、福岡ソフトバンクホークス、ライジングゼファーフクオカなど多彩なプロスポーツチーム等が活動しているが、各チームが取り組む地域に根差した取組みなどについては広く市民に認知されていないものもあり、その活動の周知を行っていく必要がある。</li> </ul>
今後	<ul style="list-style-type: none"> <li>市民の認知度を高めるため、プロスポーツチームの試合情報や地域に根差す取組みについて、広報活動を実施する。</li> <li>各スポーツチームと連携し、市民とのスポーツ交流活動を実施する。</li> </ul>

大相撲九州場所等に触れる機会づくり	
進捗	<ul style="list-style-type: none"> <li>大相撲九州場所の広報支援として、街路灯バナーの掲出等を実施。</li> <li>市内小・中・特別支援学校の観戦招待事業及びこども観戦招待事業を実施した。               <ul style="list-style-type: none"> <li>*市内小・中・特別支援学校の観戦招待事業 R3n：0校（未実施） → R4n：14校</li> <li>*こども観戦招待事業 R3n：0人（未実施） → R4n：636人</li> </ul> </li> </ul>
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>市民のスポーツへの関心を高めるため、観戦機会などの充実を図っていく必要がある。</li> </ul>
今後	<ul style="list-style-type: none"> <li>より多くの児童・生徒や市民が観戦機会を得られるよう、日本相撲協会等関係団体と連携して観戦招待事業の充実を図るなど、取組みを進める。</li> </ul>

**施策5-6 国内外への戦略的なプロモーションの推進**

**1 事業の進捗状況**

★は政策推進プランに掲げる目標値等

●シティプロモーションの推進

**市場ニーズ分析等による効果的なシティプロモーションの推進**

- ・外国人入国者数 R3n : 0.6 万人 → R4n : 40 万人
- ★市内宿泊観光客数 R2n : 224 万人 → R3n : 229 万人
- ・情報発信・招請事業回数 R3n : 16 回 → R4n : 20 回

**フィルムコミッションによるシティプロモーション**

- ・海外作品撮影支援件数 R3n : 1 件 → R4n : 12 件

●クルーズ客船誘致の取組み

**多様なクルーズの誘致**

- ★海外コンベンションへの参加回数 R3n : 1 回 → R4n : 1 回
- ※オンラインによる参加

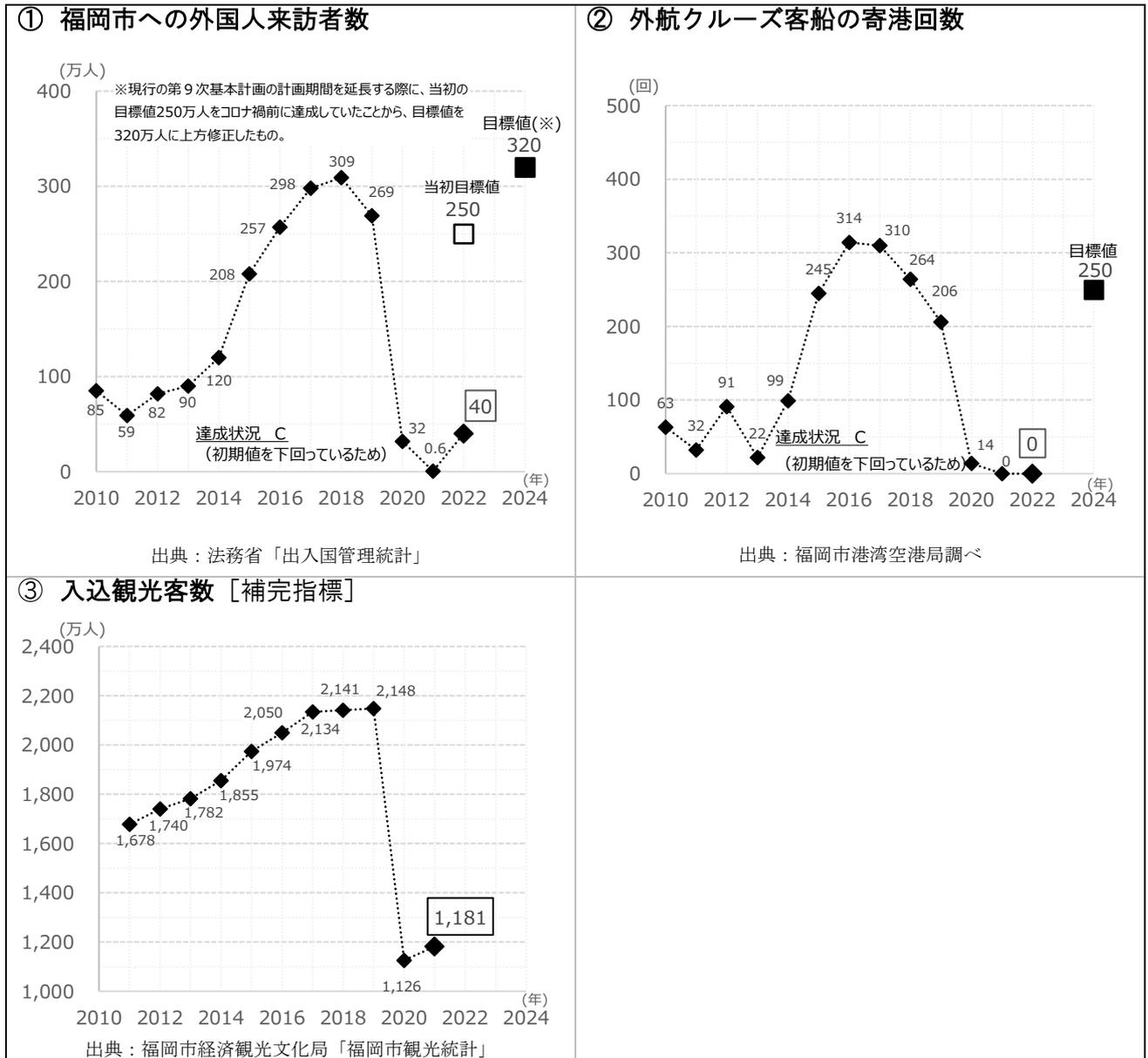
**クルーズ船の受入体制の整備**

- ・クルーズ船寄港回数 R3 : 0 回 → R4 : 2 回  
 (うち外航クルーズ客船の寄港回数 R3 : 0 回※ → R4 : 0 回※)
- ※新型コロナウイルス感染症の影響により外航クルーズ客船の寄港がなかったため

**クルーズ客の受入体制の整備**

- ・外国航路船舶乗降人員数(不定期) R3 : 0 人※ → R4 : 0 人※
- ・樋井川河畔緑道観光バス駐車場の利用台数 R3 : 0 台※ → R4 : 0 台※
- ※新型コロナウイルス感染症の影響により外航クルーズ客船の寄港がなかったため

2 成果指標等



<指標の分析>

指標①は、新型コロナウイルス感染症の影響に伴う国の入国制限措置等に伴い、2020年より大幅に減少しているものの、2022年6月以降、入国制限措置等が段階的に緩和され、前年を上回る外国人来訪者数となった。

指標②は、新型コロナウイルス感染症の影響により、外航クルーズ客船については2020年2月以降は寄港がなかったが、ポストコロナを見据え、クルーズ船社と協議をするなど、寄港数の回復に向けた準備を進めた。

指標③は、8年連続で過去最高を更新していたが、新型コロナウイルス感染症の影響により大幅に減少している。

3 事業の進捗状況、成果指標等を踏まえた「施策の評価」

× : 遅れている	[参考]前年度 × : 遅れている
-----------	----------------------

#### 4 事業の進捗状況・課題・今後の方向性

##### ●シティプロモーションの推進

市場ニーズ分析等による効果的なシティプロモーションの推進	
進捗	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国の水際措置の緩和状況や市場の特性等を踏まえながら、福岡空港への直行便がある海外の有力な市場に対し、魅力の発信と誘客の促進に取り組んでいる。</li> <li>・世界水泳選手権福岡大会の開催を活かしながら、九州の各自治体等と連携した効果的な魅力発信を行うことにより、福岡市発着の九州を周遊する広域観光の促進に取り組んでいる。 <ul style="list-style-type: none"> <li>*外国人入国者数 R3n：0.6万人 → R4n：40万人</li> <li>*市内宿泊観光客数 R2n：224万人 → R3n：229万人</li> <li>*情報発信・招請事業回数 R3n：16回 → R4n：20回</li> </ul> </li> </ul>
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ターゲットとする国や地域に向けて、主にデジタルを活用した情報発信による誘客・周遊の促進や、回遊分析などによる観光客等の動きやニーズの把握を行う必要がある。</li> <li>・魅力ある観光コンテンツを有する九州の各自治体等と連携し、戦略的に情報発信やプロモーションを行っていく必要がある。</li> </ul>
今後	<ul style="list-style-type: none"> <li>・インバウンドの本格的な回復に向け、九州の自治体等とも連携し、福岡・九州のさらなる魅力発信と誘客を促進する。</li> <li>・世界マスターズ水泳選手権の開催にあわせ、開催都市である福岡市・熊本市・鹿児島市を周遊する旅行商品の造成・プロモーション等を行い、九州周遊を促進する。</li> </ul>

フィルムコミッションによるシティプロモーション	
進捗	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルス感染症の影響等が減少してきており、少しずつではあるが海外作品の支援依頼が増加しつつある。 <ul style="list-style-type: none"> <li>*海外作品撮影支援件数 R3n：1件 → R4n：12件</li> </ul> </li> <li>・国内の映画祭会場や国際映画祭に併せて開催される海外の見本市等においてプロモーション活動を実施。</li> <li>・国内外で話題となった支援作品を活用し、SNS やデジタルサイネージ、公共施設でのポスター掲示等の広報や、配給会社等と連携したプロモーション活動を実施。</li> </ul>
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・海外で話題となるような、福岡を舞台とした映画・テレビドラマ等の作品が不足している。</li> <li>・撮影環境、慣習の違いから、海外の撮影隊を受け入れる十分なノウハウを持つ事業者が少ない。</li> <li>・福岡で撮影された映画等のロケ地について、情報発信が不足している。</li> </ul>
今後	<ul style="list-style-type: none"> <li>・これまで培ったネットワークを活用した撮影誘致活動やインターネットなどを活用した効果的なプロモーションを実施。</li> <li>・海外からの撮影隊に地元映像関係者が参画する場を提供することで、ノウハウの蓄積、人材育成につなげ、海外からの撮影受入体制の充実に取り組む。</li> <li>・支援作品の公開等に合わせ、ロケ地や作品を活用した観光 PR やシティプロモーションを行う。</li> </ul>

●クルーズ客船誘致の取組み

多様なクルーズの誘致	
進捗	<ul style="list-style-type: none"> <li>新型コロナウイルス感染症の影響を注視しつつ、海外コンベンションへの参加を通じた誘致活動を実施。                      ＊海外コンベンションへの参加回数 R3n:1回 → R4n:1回                      ※オンラインによる参加</li> </ul>
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>中国市場偏重によるカントリーリスクを避けるため、多様な地域からのクルーズ船の誘致活動に取り組む必要がある。</li> </ul>
今後	<ul style="list-style-type: none"> <li>アジア以外の地域からのクルーズなど多様なクルーズを誘致するとともに、船社への働きかけ等により、博多港発着クルーズの更なる振興を図る。</li> <li>F I T（訪日外国人個人旅行）の振興などによる寄港地観光ツアーの多様化・上質化に取り組む。</li> </ul>

クルーズ船の受入体制の整備	
進捗	<ul style="list-style-type: none"> <li>クルーズ船の大型化や寄港回数の増加に対応するため、中央ふ頭西側岸壁を延伸し、H30.9に供用を開始。</li> <li>クルーズ船については、新型コロナウイルス感染症の影響により、R2.2以降は寄港がなかったが、R4.11に国内クルーズを受入再開し、R5.3末には外航クルーズも受入再開した。                      ＊クルーズ船寄港回数 R3:0回 → R4:2回                      （うち外航クルーズ客船の寄港回数 R3:0回※ → R4:0回※）                      ※新型コロナウイルス感染症の影響により、外航クルーズ客船の寄港がなかったため。</li> </ul>
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>クルーズ市場の動向や他港の状況などを注視しながら、安全に受入れができる体制を確保する必要がある。</li> </ul>
今後	<ul style="list-style-type: none"> <li>外航クルーズ客船の受入れにあたっては、クルーズ市場の動向や他港の状況などを注視しながら、安全安心を第一に受入体制確保に取り組む。</li> </ul>

クルーズ客の受入体制の整備	
進捗	<ul style="list-style-type: none"> <li>福岡タワー周辺における観光バスショットガン方式の運用。                      ＊樋井川河畔緑道観光バス駐車場の利用台数                      R3:0台※ → R4:0台※                      ＊外国航路船舶乗降人員数（不定期） R3:0人※ → R4:0人※                      ※新型コロナウイルス感染症の影響により、外航クルーズ客船の寄港がなかったため。</li> </ul>
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>クルーズ客のツアーが一部の商業施設や観光地に集中しているため、市内で交通混雑が発生する。</li> </ul>
今後	<ul style="list-style-type: none"> <li>寄港地観光手配予約システムの活用などによる訪問先・時間の分散化に取り組む。</li> <li>クルーズ船観光バスによる交通混雑については、博多港クルーズ船受入関係者協議会や県警などとも連携し、対策に取り組む。</li> <li>クルーズ市場の動向等を注視・分析し、その回復状況なども踏まえながら取り組む必要がある。</li> </ul>